

—秋田県—

知ってる？ドボク～橋から知ろう、土木の魅力～ (建設業の担い手確保・育成に伴う取組み事例紹介)

1. はじめに

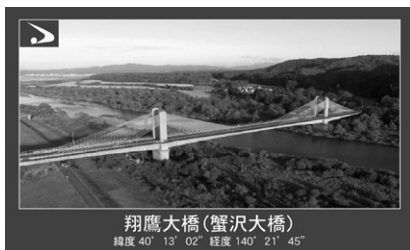
秋田県の建設産業は、県内の人口減少に伴い深刻な担い手不足に直面している。建設業界は3K（きつい、汚い、危険）というイメージをもたれることが多いが、実際には「やりがい」や「達成感」が得られる魅力的な仕事であることをアピールしていく必要がある。

そこで、秋田県由利地域振興局では昨年度、若手職員が主体となって、普段から身近に感じることができ土木構造物としての「橋」に着目し、建設業の魅力発信と担い手確保に向け、2つの取組みを行った。

2. 取組み①「あきたの橋カード作成」

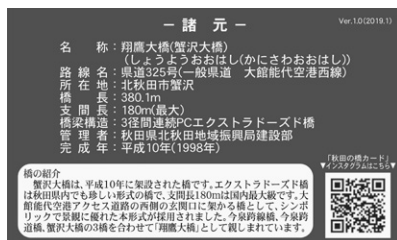
近年、ダムカードやマンホールカードなどが管理者より配布され、これにより一般の方々が土木構造物を身近に感じる機会が増えてきている。

今回、由利地域振興局では独自に「橋カード」を作成し、導入の可能性を探るため、県内の各地域振興局管内から構造的な特徴を持つ橋や、美観の優れた橋を1橋選定し橋カードを作成した。



翔鷹大橋(蟹沢大橋)
緯度 40° 13' 02" 経度 140° 21' 45"

橋カード (表面)



橋カード (裏面)

表面に空撮写真、裏面に①橋梁諸元②橋の特徴を表記したほか、市販のカードケース等に入れられるよう、大きさは名刺サイズと同様の定規規格のサイズとし、撮影にはドローン等も活用した。

3. 取組み②「出前講座の実施」

今後の建設業の担い手となりえる高校生を対象として、地元の高校において秋田県由利建設業協会と共同で「橋梁模型等組み立て体験を通じた出前講座」を平成31年2月に実施した。

「レオナルドの橋(※)」を題材とした体験講座を行い、木材の組み立てから実際に乗って渡ってもらうところまで高校生に行ってもらい、固定具を用いずに、木材の組み合わせのみで橋が渡れることを体験した後、図解や模型を用いながら橋の構造のしくみについて学ぶ内容とし、高校生からは好評を受け、県内地方紙に記事として取り上げられた。



出前講座の状況

4. おわりに～今後の課題とまとめ～

橋カードを出前講座の際に高校生へノベルティとして配布したが、より広く、一般の方々へPRするための手法について、今後検討していきたい。

また、出前講座についても、内容や受け入れやすさを一番に考え試行錯誤を重ねているが、より多くの方々に知ってもらうために、さらなる内容の充実と、多くのPR機会、講師の確保等を視野に入れ、引き続き検討を重ねていきたい。

これらの取組みが少しでも私たちの仕事への理解につながり、明日の担い手が確保されていくこと、担い手確保に日々努力されているの方々への参考となることを願っている。

(秋田県 由利地域振興局 建設部 佐藤 大、
竹村 蒼也、田澤 はるか、亀山 稜登、佐藤 壮太)

※レオナルドの橋(レオナルド・ダ・ヴィンチが考案した、固定材を一切用いず、部材の組み合わせにより、橋を架けられる仕組みを考案したもの。)